



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021～2022年度

滝川ロータリークラブ

会長 坂本 和繁

- 例会日：毎週木曜 PM12:30より
- 例会場：ホテル三浦華園
- 住 所：滝川市花月町1-2-26
- 電 話：(0125)-22-3344
- F A X：(0125)-24-2755
- メール：info@rotary.gr.jp
- WebSite：www.rotary.gr.jp

第3296回 例会報告 令和4年6月16日（木）

会長挨拶



本日の会長挨拶報告は前回例会の続きであります。オプジーボなど免疫チェックポイント阻害剤は免疫機能をすり抜けている癌を攻撃できるように免疫に働きかける画期的な治療薬ですが、今のところ効くのは2割～3割にとどまっているようです。現在、世界中で効くか効かないかの見分けの研究が何千と行われ、また、既存の抗がん剤や他の阻害剤との組合せ治療が行われています。この先10年～20年で効く人の割合は6割、7割になるだろうとの予測です。現状、日本ではオプジーボをいきなり使ってもらうことはできません。癌種と特定のバイオマーカーにもよりますが、抗がん剤が効かなくて初めて使えるということになります。ただ、抗がん剤を長く投与し、薬剤耐性ができて効かなくなったようなケースでは全身状態が悪化し、白血球の減少など免疫機能が疲弊している可能性が高いです。そのような状態では免疫チェックポイント阻害剤は効きにくいと言われています。阻害剤は薬剤耐性ができてすぐ効かなくなるのも課題です。2万ほどある人の遺伝子の中で、癌に関わっていることが判明している遺伝子は700強ほどあるそうです。その遺伝子変異に着目し、癌細胞にだけ作用する抗がん剤が分子標的薬と言われるもので100種類ぐらいあります。癌細胞にしか作用しないので副作用が無く、薬剤の有効性も期待できます。しかしながら、遺伝子変異が判明したとしても適応する薬がある確率は10%程度と少ないです。欧米では700ある遺伝子のどの遺伝子の何番目の配列のアミノ酸に変異があるかという膨大な数遺伝子変異を調べて、適応する薬剤があれば、まず、分子標的薬を投与し、それが効かない場合に一般的な抗がん剤を投与します。日本では一般的な抗がん剤をまず使用し、その効果がない場合に、癌種とバイオマーカーによっては分子標的薬の投与が可能となりますので、そこにたどり着くまでに時間がかかりますし、また、遺伝子変異パターン数に対し分子標的薬はまだ少なく、たどり着けないことが多いです。承認を目指して開発中の薬剤や治療方法はたくさんありますが、それらが承認までこぎつけるのは化合物、治療方法の発見数に対し約1%で、承認まで15年程ですが、AIやスパコンで短縮傾向です。また、日本で使用される薬剤は、まず、米国のFDAで承認されたものが多く、日本での承認はだいたいFDAの承認から2、3年後という状況です。世界に先駆けて日本で申請する場合は「先駆け審査指定制度」により、審査期間を短くしています。また、日本が予算を割いてきたIPS細胞については、旗色が悪いようです。世界中の研究者が期待していたほどの万能性がないと結論付けたのが原因らしく、予算も削減され、成果が遅れそうです。

会長挨拶<続き>

ということで、大きな流れとして、分子標的薬と免疫チェックポイント阻害剤という二大ツールをどう組み合わせるかに期待が寄せられており、新しい分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤の開発と合わせ、今後10年程で大きく進歩するだろうと予測されています。もちろんそれ以外にも、楽天メディカルの光免疫療法や東京大学発のウイルス療法なども期待されていますが、多くの癌種に適用になるまで時間がかかりそうですので、予防と早期発見のため検診が必須です。癌の始まりは遺伝子変異です。加齢や生活環境から健康な人でも日々5千ほどの遺伝子変異、すなわち癌化が起きていると言われています。50歳ごろから急激に低下する免疫力を維持することがとても大切であると感じます。

次週例会案内



次週、第3297回例会は、2021-2022年度の最終例会となります。親睦委員会担当の「一年を省みて」で、三浦華園にて18時00分からの夜間例会となっております。坂本会長の最後の例会となりますので、多くの会員のご出席をお願い致します。

\(^o^)/ニコニコBOX報告（敬称略）

坂本和繁・加藤勇三・住吉直樹・鈴木英光・西田浩二
近藤正孝 <小計24,000円・合計952,000円>

編集/クラブ会報委員会 発行日：令和4年06月17日

前回のプログラム [講師例会]

— 「廃棄野菜の有効活用」 —

【広報委員会担当例会】



NPO法人新十津川ぴあネットワーク
法人事務局長

小玉 博嵩 様

障がいのある方と力を合わせて地域を元気にしていきたいという思いから平成29年立ち上げられた同法人は、障がいのある方が楽しく日常生活する共同生活援助事業、また、就労継続

支援B型事業で新十津川町役場でのカフェなど障がい福祉事業を行われております。また、地元農家の廃棄野菜を活用した製品作りに力を入れられており廃棄されるトマトをフリーズドライトマトパウダーとして加工販売されています。その他に、地域の方が集えるふれあいサロンの運営、成年後見制度促進など地域づくりに大変力を入れられておられます。

出席報告 6月16日

会員数	病欠	免除	出席	欠席	出席率
86名	0名	6名	48名	38名	60%

■ゲスト： NPO法人ぴあネットワーク
法人事務局長 小玉 博嵩 様